

# 「大阪市が消えていいのか？」 虚構の大阪都構想

1票でも賛成が上回れば1889(明治22)年以來の「大阪府」が消える。市を廃止して24区を四つの特別区に分割する「大阪都構想」を問う二度目の住民投票が11月1日に迫った。新型コロナウイルス対応での吉村洋文大阪府知事の人気もあり大阪維新の会はリベンジにイケイケムードだ。

栗野仁雄

10月4日、大阪市中央区のエル・シアターで「特別区設置協定書について」と題する最後の住民説明会が開かれた。事務局、松井一郎大阪市長、吉村洋文大阪府知事が約30分ずつ説明し、質疑に入った。ある女性が「コロナで大変なこの時期に、どうして投票するんですか？」と聞いた。事務局の司会者が間髪入れずに「協定書の説明に関する質問の場ですから」と遮った。女性は反論しなかった。渡船を経営する大正区の女性は

「船が大正区と港区の二つの区を跨ぐけど、管轄は特別区か、府かどっちになるんですか？」と質問した。現実的かつ想定外の質問に、回答はやや時間がかかったが、松井市長は「渡船の水路は道路扱いなので(管轄別で)切れたりしません」などと答え、事務局から詳細を連絡する約束をした。8回の住民説明会は、これで終わった。住民説明会は5年前の住民投票では39回行なわれ、怒号が飛び交うなど熱気がこもったが、今回は

## 大阪都構想の経緯

### 2010年

3月 橋下徹大阪府知事(当時)が「大阪維新の会」の結成に伴い「大阪都構想」を打ち出す。当初大阪府を8分割し、堺市、豊中市など周辺の中核都市も取り込み「グレート大阪」と称する「大阪都」を目指したが堺市長の反対などで頓挫。

### 2015年

5月 住民投票は僅差(賛成69万4844票、反対70万5585票)で否決。  
11月 維新、「ダブル選挙」で松井氏が府知事、吉村氏が市長に当選。特別区の数を5から4にするなど修正し、再提案。

### 2018年

11月 パリの博覧会国際事務局総会で25年の大阪万博開催が決定。両首長は「府と市が共闘して誘致が成功した」と、都構想推進に弾みがつく。

### 2019年

4月 統一地方選で知事と市長の候補を入れ替えて2人が当選(松井氏が市長、吉村氏が府知事)。その後、都構想について公明党が賛成に転じる。

### 2020年

6月 都構想の詳細を盛り込んだ協定書が、大阪府市「大都市制度協議会」で可決。  
8月 府議会で制度案可決。  
9月 市議会で制度案可決。  
11月1日 二度目の住民投票実施。

(上) 住民説明会を終えた松井一郎大阪市長(写真左)と吉村洋文大阪府知事。  
(左) 10月4日、大阪市中央区で開かれた住民説明会。

コロナ感染防止名目で回数も少なく、総じて盛り上がった印象はなかった。終了後の会見で、松井市長は「なすべきことは、やり尽くした」などと満足そうに話した。

## やり直し住民投票

大阪都構想は、当時の橋下徹大阪府知事が、「大阪維新の会」以

下「維新」結成時にぶちあげたものだ。大阪市内に市立、府立の同目的施設が並立していたことで、「二重行政の税金無駄遣いをなくす」がスローガンだったが、「府市一体」では地味。橋下氏は「東京に対抗できる大阪都」を掲げて浪速っ子の東京コンプレックスをくすぶる。

